

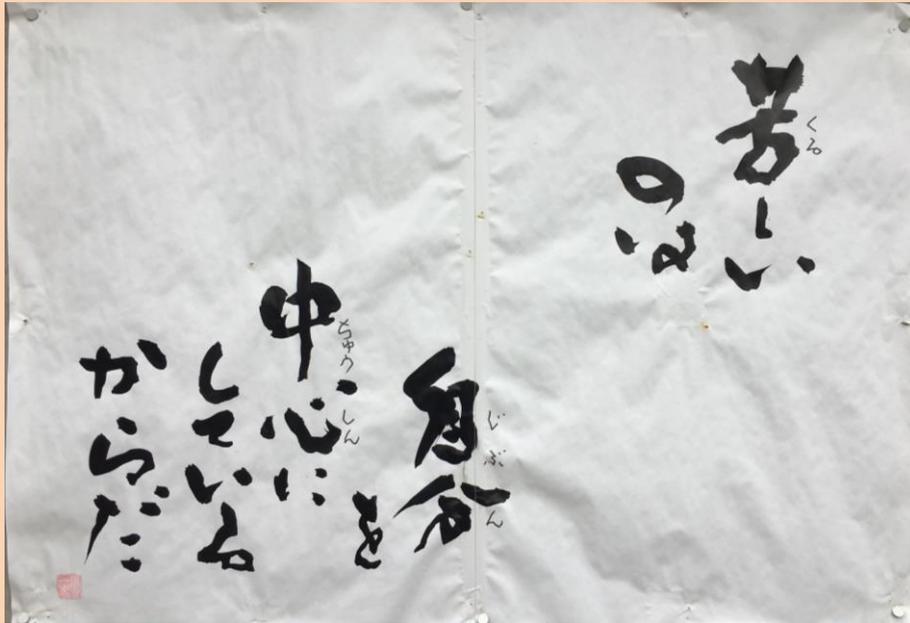


真宗大谷派 存明寺通信

No.192

2019年(仏歴2550年)9月20日発行

お寺の掲示板の言葉



苦しいのは
自分を中心にして
いるからだ



人間はすべてのことを自分を中心にしな
がら見つめ、考え、行動する。それは人間
としてごく当然のことでもある。いや、私
は他者のことを第一に考える、などという
人は、おそらくいないはずだ。

自分を中心にして
いる私たち。しかし、
だからこそ、自分のことをかわいがるあま
り、時に他者の存在を見失って、他者を傷
つけていくのも私たちのすがたである。

苦しいのは

自分を中心
しているからだ

仏さまはそんな私たちのすがたを照らし
出し、苦しみの本当の原因を教え続けてい
る。

私たちにできること、それはそのような
ひかりの言葉の前にたたずんで、普段は見
えない私のすがたを知らされていく道を歩
んでいくということだろう。(住職・釋諦信)

『私を照らすひかりの言葉』から

であいなおす

であいつづける

存明寺住職 酒井義一

であい
な
お
す
であい
つ
づ
け
る

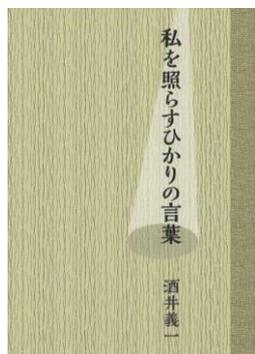


■住職の本

私を照らすひかりの言葉

高山教区（岐阜県）の『ひだ御坊』に2014年から4年間にかけて連載させていた「私を照らすひかりの言葉」が、一冊の本になりました。自分が出遇った言葉とその墨書、住職のコラムが掲載されています。

その中から今回は「であいなおす であいつづける」という文章を掲載いたします。



ドキリとしたこと

今年八十一歳になる母と同居をしています。このところ、母は物忘れが多くなってきました。かかってきた電話の相手が誰だったのか、忘れることもよくあります。

「東本願寺から電話があつたわよ」と母。「東本願寺の誰？」と私。「それは忘れた」と母。それではだめなのですが・・・。

こちらに余裕がある時はいいのですが、忙しい時などはついイライラしてしまいます。実の親子なので遠慮がありません。本気で怒ってしまうこともありました。

そんなある日、弟が泊りがけでやってきました。夜一緒にお酒を飲んでいる時に、弟はこう言いました。

「兄貴、おふくろが言ったたぞ。」

兄貴のこと、こわいって」その一言にとでもドキリとしました。そんなふうにも母に思わせていたとは。人は老いるもの。その老いのすがたを母はきちんと私に見せてくれていたのでした。

それからは心を入れ替えて、なるべく母との対話を大事にしようと思えました。母の話は最後までちゃんと聞く。もちろん守れないこともありましたが、それでも今までよりは会話が増えたような気がしました。

初めて知った母の戦争体験

ある日、母がもう一度訪れてみたい場所があると言いました。それは戦争中の疎開先でした。ちょうどその方面に出張する予定があつたので、この初夏に初めて母とのふたり旅が実現しました。

訪問先は富山県高岡市伏木たかおか。ここに母の叔母が嫁いだ家があり、戦争中に疎開をしていたのでした。その地で九十歳になるご婦人と、およそ七十年振りの再会もありました。出会えたことを喜び、一緒

に遊んだこと、海に泳ぎに行ったことなどを楽しそうに語る母がいました。

その日の夜、戦争中の話をしてくれました。それは今までに聞いたことがなかった話でした。

戦争中に二歳下の弟と二人だけで疎開をしていた母は、物資の乏しかった時代、楽しい思い出とは別に、つらい思い出もあると語り出しました。

それは、邪魔者扱いされたこと、食事を家族と離れた土間で食べていたことなどです。子供心に悲しくてつらかった、と語っていました。

戦争が終わって七十一年目にして初めて聞く母の戦争体験でした。出会っていたつもり之母と、実はなかなか出会えていなかったことを痛感した瞬間でした。

それと同時に、出会っているつもりの人と出会い直していくことの大切さも、痛感した瞬間でした。

出会い直すということ

親鸞さまは、青年時代に聞いた

法然さまの言葉を、晩年になっても、繰り返し繰り返し味わっておられたようです。

末燈鈔第六通は、親鸞さまが八十八歳の時に書かれたお手紙です。その時代背景には、天変地異や飢饉などによって多くの人が次々と亡くなられる厳しい現実があつたようです。

それに直面した親鸞さまは、五〇年以上前の青年時代にお聞きした法然さまの言葉、すなわち「愚者になりて往生す」（末燈鈔 六〇三頁）という言葉を思い返し、出会い直すそうとしておられます。

そこにおられるのは、「一度聞いたらそれで終わり、さあ次の言葉へ」という親鸞さまではありません。自分が出会えた言葉を自らの歩みの中で抱き続け、人間が亡くなっていく世の現実おくれんに直面しながら、言葉を大切に憶念する親鸞さまです。

ここに、言葉に出会い直し、言葉に出会い続けていく親鸞さまがおられます。

出会ってきたつもりの人や言葉

と出会い直すということ。出会い続けるということ。それは、私たちが大切にすべきことなのではないでしょうか。

あなたは今、となりにいる人と、きちんと出会えていますか？私を照らす言葉と出会い続けていますか？

この文章は2016年8月の『ひだ御坊』に掲載された文章です。



夏の境内の風景 2019年8月



ぞんみょうじこども会 2019年8月



樹心の会 2019年9月



お寺のひろば 2019

9月23日(月) 11時と13時 秋のお彼岸法要 ひがん

お話し：佐藤尚宏さん・佐藤眞彌さん・住職

9月28日(土) 14時 グリーフケアのつどい

大切な方を亡くされた人々のつどい

10月5日(土) 14時 日帰り旅行会

行先：深大寺・神代植物公園・水神苑

案内：熊崎尚登さん(存明寺世話人)

10月12日(土) 13時半 樹心の会 じゆしん

お話し：高岡文子さん・住職

10月26日(土) 10時 おみがきのつどい

仏具のおみがきと清掃奉仕のつどい

11月2日(土) 14時 報恩講のゆうべ ほうおんこう

3日(日) 12時 報恩講法要

お話し：金石潤導先生(北海道教区開正寺住職)

講題：人間獲得(じんかんぎやくとく)

内容：法要・法話・お斎(3日)

11月9日(土) 13時半 樹心の会 じゆしん

お話し：岸木勉さん・住職

12月14日(土) 13時半 樹心の会 じゆしん

お話し：三好浩一さん・住職

12月21日(土) 14時 グリーフケアのつどい

大切な方を亡くされた人々のつどい

◎ぞんみようじこども会 月一回

◎ぞんみようじこども食堂 月一回

◎子育てサロンいちごのへや 月一回

日帰り旅行会 深大寺への旅

10月5日(土) 14時

集合 京王バス「深大寺」停留所

内容 深大寺と神代植物公園見学

水神苑にて夕食交流会

案内 熊崎尚登さん(存明寺世話人)

会費 6,000円(夕食代を含む)

※9月末日までにお申込み下さい。

親鸞に出遇う 報恩講法要

11月2日(土) 14時

報恩講のゆうべ

11月3日(日) 12時

報恩講法要

講師 金石潤導先生(北海道開正寺)

講題 人間獲得(じんかんぎやくとく)

場所 存明寺にて

内容 報恩講法要・法話

※3日はお斎(精進料理のお昼ごはん)をご用意します。

※会費は、お布施(おごころざし)です。

【あとがき】

▼夏の終わりに身の回りにいろいろなことが起こり、今回は寺報を作る充分な時間が取れませんでした。今までに書かせていただいた文章を掲載し、急いで『生きる』秋のお彼岸号を作成した次第です。笑ってお許しください。

▼秋のお彼岸といえは「彼岸花」。ちょうど一年前、お寺の墓地のあちこちに咲いていた彼岸花を掘り起こし、門前や境内など、人様の目に触れる場所に植え替えをしてみました。この秋、お寺に来られる方々を、彼岸花がそつとお迎えするはずですよ。

▼御身、どうぞご自愛ください。

(住職)



東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一(釋諦信)

TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp